

令和3年度
興南高等学校
入学試験問題

後期

国語

令和3年3月13日（土）実施 50分／100点満点

受験上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙は開かないようにして下さい。
解答用紙は別になっています。
2. 問題は【一】～【三】まで3題あります。
3. 試験時間は50分です。
4. 解答は解答用紙の所定のところに記入して下さい。
5. 解答は楷書で丁寧に記入して下さい。
6. 解答用紙には、受験番号、中学校名、氏名を必ず記入して下さい。
7. 試験終了後、問題用紙は持ち帰って下さい。

【一】 次の文章は、斎藤茂太の書いた文章の一部である。本文中の△ ≪は内容のまとめり毎につけられた小見出し（タイトル）であり、本文はその抜粋である。本文を読んで後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧に記入せよ。

△失敗するたびに成功に近づいている△

目標を掲^aげて^①も、いつも成功するとはかぎらない。失敗はつきものだともわかっていても、現実には失敗したときは落ちこむものである。

そんなときは、「大いに悩みなさい^②」と私は言いたい。ただし、「自分はダメな人間だ」とグズグズ悩むのではなく、「自分はどうかダメなのか」を考え抜くことが大切だ。つまり、失敗した原因をとことん突きとめるのである。

失敗のダメージを受けたときに、ダメな自分と正面から向き合うのは勇気がいることだ。△A、ここできちんと反省しておかないと、また同じアヤマチを繰り返す。

また、「自分は精一杯の努力をした」と思えるときでも、簡単に「だから、自分の能力ではむりなことだったんだ」と結論づけてはいけない。成功しなかったということは、まちがった方法で努力をしていたのかもしれないからだ。

失敗したときに「私が努力をした点だけは認めてください」と言う人がいるが、人が評価してくれるのならともかくセイカの上^③らない無駄な努力をしておいて評価しろと自分から求めるとは、虫のいい話である。

△B、人がその種の努力を認めてくれたとしても、努力の方向がずれていたのではないかと反省すべきである。

いずれにせよ、失敗の原因がわかったら、そこで悩むことをやめなければならぬ。せいぜい丸一日も考えれば十分。自分のダメなところが見えてくるはずだ。あとは、マイナス思考を「封印」して、プラス思考で事に臨めばいい。

失敗から得ることはたくさんある。だから失敗するたびに、どうすればうまくいくかがしだいにはつきりわかってきて、目標に一步步近づぐこともできる。

失敗せずに目標にトウタツすること自体、ありえないことなのだ。そんなふうにはプラス思考で考えると、失敗を恐れて行動できないようなことはなくなる。

*1 ホンダの創業者・本田宗一郎氏は、「私の現在が成功というのなら、それは過去の失敗が土台づくりをしてくれたものだ。仕事はみんな、失敗の連続である。私のやったことの九九パーセントは失敗だった」と言っている。

また、エジソンは白熱電球を発明したときには三万回もの失敗を繰り返したが、「失敗するたびに成功に一步一步近づいていると思っていた」と語っている。

これらの言葉から、失敗には成功へのヒントが隠されているということがわかる。ただ失敗を嘆くだけでは、**失敗の「恩恵」**が受けられないのである。

世の中ではよく「二代目のダメ経営者」といったことが言われるが、これも何度も失敗を重ねて事業を成功させた創業者と違って、二代目はセイカを守ることを第一義に考えて行動力が減退し、失敗から遠ざかることも原因の一つだろう。失敗を恐れずに新しい目標に取り組み、ある程度の失敗経験を経て実現させていかなければ、そのうち過去の成功も色あせてしまうものである。

④ どうだろう？ **失敗が成功への武器になる**、そう理解すれば、失敗を恐れる気持ちも払拭できるのではないだろうか。

《逆境に押しつぶされないための心理術》

人は逆境にあるとき、今より悪い状態になることを恐れて、どうしても怯んでしまう。そうなると思いついた行動がとれず、八方

塞がりのような状態にとらわれる。これでは、いつまでたっても逆境から抜けでることはできない。

では、逆境に押しつぶされないためには、どんな考え方をすればいいのか。それは失敗から立ちなおるときと同様で、逆境をむしろ歓迎する気持ちになることだ。

「まちがいでなく状況は厳しい。さあ、これから苦勞するという貴重な経験を味わわせてもらうとするか」と自分に言い聞かせて勇気を鼓舞し、さらに「大丈夫、いつかは乗り切れる」と信じるといい。

逆境を味わった苦勞が「経験値」となって、その後の人生をよりよく生きるための肥やしになるはずだ。

逆境にあるとき、なかなかそんな気持ちにはなれないだろうが、だからといって、不運を嘆いていても気持ちは萎えるばかり。不思議なもので、いつまでもクヨクヨと不運の中に浸っていると、もっと多くの不運に見舞われるものなのだ。ちよつと体調を崩すと、多くの病魔が襲ってくるようなものかもしれない。

(中略)

また逆説的だが、あらかじめ最悪の事態を予測しておくのもいい。 C リストラされて、新しい職を探さなければならぬ人なら、「このまま職が見つからないと、半年後には家を売らなければならぬ。それでもローンは残る。一文無しどころか、負債を抱える。家族は自分を見捨てる。家も収入の道もなければ、路上で生活するしかない」といった悲惨な結末を考えるのだ。

「かもしれない」と恐れるから「どうしよう?」とオロオロするのであって、最悪の結末までシミュレーションすれば、「どうにかするぞ」という気持ちになるものだ。

それに、行動した結果、今より悪い状況になったとしても、「予測していたよりはマシだ」という心の余裕が持てる。そこからまた、「もう少し、がんばろう」と立ちあがれるだろう。

逆境の中で身を縮めているよりはずっと、行動的になれるに違いない。険しい山に登る人は、たえず最悪の状況に陥った場合のことを想定して装備をととのえていく。そのため行動力は制限されるが、いざというときあわてなくてすむ。

いづれにせよ、「禍福はあざなえる繩の如し」とか、「人間万事、塞翁が馬」と言われるように、いいことと悪いことは繰り返し起こるものだ。逆境や不運を乗り切るには、結末を恐れずとにかく行動するしか道はない。嘆いている暇を自分に与えないのが一番である。

【斎藤茂太 『グズをなおせば人生はうまくいく』大和書房 ※問題作成の都合上、一部改変】

【語注】

*1 ホンダのく宗一郎氏 世界的な自動車メーカーである「ホンダ」を一代で築き上げた本田宗一郎氏のこと

*2 逆説的 普通とは逆の方向から真実を述べるさま

問一 二重傍線部 a～e の漢字の読みをひらがなで答え、カタカナは漢字に直して答えよ。

- a 目標を掲げて
- b アヤマちを繰り返す
- c セイカの上がらない
- d 目標にトウタツする
- e 負債を抱える

問二 本文中の A、C に当てはまる接続語として最も適当なものを次のア～オから選び、それぞれ記号で答えよ。ただし、同じものを用いてはならない。

- ア そして
- イ そのため
- ウ しかし
- エ たとえば
- オ また

問三 本文中の **B** に当てはまる語として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア けして イ まるで ウ まさか エ たとえ

問四 傍線部①「いつも」はどの部分にかかるか、本文中より一文節で抜き出して答えよ。

問五 傍線部②「大いに悩みなさい」とあるが、筆者は具体的にどのようなようにするべきだと述べているか。最も適当なものを次のア～

エから選び、記号で答えよ。

ア 自分のダメな部分を探して、周囲に理解してもらうにはどうしたらよいか悩むべき。

イ 自分はダメだとマイナス思考はせず、プラス思考で何とかなると考えるべき。

ウ 自分のことをおとしめるのではなく、自分が失敗した理由を考えて反省するべき。

エ 失敗した原因をとことん考え抜いて、とにもかくにも一生懸命に努力するべき。

問六 傍線部③「失敗の『恩恵』」とあるが、筆者は「恩恵」に「『』」をつけている理由として、最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 失敗とは目的が達成できないことであるが、失敗からも利益が得られる点を強調したいから。

イ 本来の「恩恵」の意味とは異なり、筆者が別の意味で使っていることを印象付けたいから。

ウ 失敗をマイナス思考で考えるためには、「恩恵」という言葉と結び付かない点を強調したいから。

エ 「恩恵」を得るためには、意図的に失敗する必要があるということ的印象付けたいから。

問七 傍線部④「失敗が成功への武器になる」とあるが、その理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 挑戦して失敗することに勝手に経験値がたまり、自分で考えて努力しなくても成功する方法が湧き出てくるから。

イ 失敗することの原因を徹底して考えることで成長していき、失敗を恐れない気持ちも出て新たな挑戦ができるから。

ウ 失敗しても諦めずに続けることでその努力する姿勢を評価してくれる人が現れ、成功への道筋が見えてくるから。

エ 失敗することで生まれてくる改善点を積み重ねることで、自分自身の弱点に向き合う強さを手に入れられるから。

問八 傍線部⑤「あらかじめ最悪の事態を予測しておくのもいい」とあるが、その理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 自分の状況に関して最悪の状態まで考え頭の中でたくさん失敗しておくことで、実際に挑戦して失敗したときと同じように多くの経験値が得られ、実際の行動も成功するから。

イ 失敗を恐れて悪い予想をするから行動できないのであり、一度とことん最悪な状況をシミュレーションすることで、どうかするにはやるしかないと同向きになれるから。

ウ 最悪の状況まで考えることで、現状をどうにかしようと思いき直って挑戦することができ、行動した結果がうまくいかなくても予想よりもよいと心を持ち直すことができるから。

エ 実際に挑戦した結果が何もしないときより悪化しても、最悪以外の状況であるならば想定内のため、心に余裕が生まれ次の対策もしてもうひと踏ん張りできるようになるから。

問九 傍線部⑥「人間万事、塞翁が馬」はどのような故事にもとづく言葉か。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 人間ではこれ以上先に進めないような八方塞がりの場面でも、老いた馬の経験を活かして危機的状况を脱出することが出来た故事。

イ 飼われている馬は囲いの中で一生を過ごして老いていくことと同じように、古代の中国人が城の塀の中でずっと生きていくようにする故事。

ウ 人間では後ずさりしてしまうような絶望的な場面でも、馬は前を向いて進むことしかできないため、全速力でその場面に飛び込みできた故事。

エ 飼っていた馬が逃げってしまったが別の雌の馬を連れて帰ってきたことや、飼っていた馬に乗って落馬し骨折したが兵役を免れた故事。

問十 本文の作者の父は歌人の斎藤茂吉である。斎藤茂吉の作品を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア みちのくの母のいのちを一目見ん一目見んとぞただにいそげる

イ 春すぎて夏来きにけらし白妙しろたえの衣ほすてふ天あまの香具山かぐやま

ウ 東風吹かば匂こちひおこせよ梅の花主あるじなしとて春を忘るな

エ 『この味がいいね』と君が言ったから七月六日はサラダ記念日

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧^①に記入せよ。

主人公の祐輔^{ゆうすけ}は、勤めていた会社が倒産し、無職となる。その話を聞いた妻の厚子^{あつこ}はあっけらかんとしており、すぐさま元の職場に復帰する。その後、祐輔は主夫としての生活を満喫^{まんきつ}し、毎日息子の昇太^{しょうた}の弁当を作るなどしていた。

祐輔の料理の腕前は格段に進歩した。いわしの蒲焼^{かばやき}、などというものが手早く作れてしまうのである。きんぴらごぼうも難なく出来た。昇太の弁当に入れたら、全部食べてくれた。なんと、我が息子の味覚は和風だったのか。ブロッコリーを醤油^{しょうゆ}で煮しめることを本気で考えた。

厚子は会社員生活を満喫している様子だ。週末、接待ゴルフに行ってもいいかと聞くので、もちろんいいよと答えた。クラブすら握ったこともないのに、いい度胸である。^{*2}いつぞやの一件に関しても、「あの馬鹿ポリ、もう踏み切りに立たなくなってやんの」とほくそ笑んでいた。^a基本的に外向的な性格のようである。もちろん、結婚前から知っていたのだが。祐輔はふと疑問を覚え、昇太を寝かせた後に聞いてみた。

「昇太を妊娠したとき、会社を辞めたじゃない。あれ、本当は続けたかったんじゃないの？」

「うん。できればね」厚子は即答した。

「どうして続けたって言わなかったの？」

「ユウちゃんの実家の手前。お義母さんに『厚子さん、仕事は辞めるのよね』って聞かれて。それがすごく無色透明^①で自然な言い方だったから、つい『はい』って答えちゃったの」

「うそ。そんなことがあったんだ」

おふくろめー。腹の中で文句を言った。

「でも、昇太と毎日一緒にいられてよかったよ。今じゃいい判断だったと思ってる」

厚子^bが涼しい目で言い、祐輔は感動した。

「じゃあわたしも聞くけど、ユウちゃん、サラリーマン生活、いやじゃなかった？」

「べつにそういうことはなかったけど」

「でも、なんか、今のほうが楽しそう」

「まあ、そうだけど、それは失業して気づいたことだから。おれって家にいるほうが向いてるかも。そんな感じ」

「毎朝、駅に行くとき、パン屋のおばさんに会うの。店の前で掃除してるから。でね、笑顔で挨拶を交わすんだけど、目に同情の色があるの。『大変ね』『くじけないでね』って顔に書いてある」

厚子^②が眉を八の字にして、吐息^{といき}交じりに言った。

「そういうのなら、こっちのほうが凄^{すごい}い。なんたって『逆境に打ち勝つ50の名言』だから」

祐輔^{*3}は公園であった出来事を話し、その本を見せた。「あはは」厚子が腹を抱えて笑う。

「そうか。我が夫婦は世間の誤解を浴びているのか」

「^{*4}ジェンダーってしぶとんだよ」

そこへ電話が鳴った。誰だろうと思って出ると、実家の母だった。噂^{うわさ}をすれば、である。「あのね、おねえちゃんに聞いたんだけどね…」母が切り出した。姉には会社が倒産したことを告げてあったので、それが伝わったのだろう。

「大変だったねえ。大丈夫？無理しないようにね」

③ 赤ちゃんの肌を撫でるような声である。母はこの世の不況を呪い、政治家を批判し、気落ちしてはいけなさと息子を慰めた。そして「おとうさんと代わるからね」と、電話をバトンタッチした。

父と電話で話すことは、ほとんどない。月に一度は様子伺いの電話をかけているが、毎回話すのは母だ。不仲でもなんでもないが、父と息子とはそういうものだ。

「ああん」受話器の向こうで咳払いが聞こえた。「おう、祐輔か」^④無理矢理作ったような穏やかな声だった。

「災難だったな」

「うん、まあね」

「ハローワークには通ってるのか」

「うん。失業保険の手続きに行ったきりだけど」

「そうか。通ってないか。まあ、焦ることはない。四十を過ぎると職探しも大変そうだが、おまえはまだ三十六だ。いくらだつて見つかるとさ」

「うん、そうだね」

「蓄えは、あるのか」

「多少はね」

「困ったら遠慮するな。おとうさんたちは気楽な年金生活だ。大金じゃなければいつでも都合はつく」

「うん、ありがとう」

少し間があいた。慣れない会話なので、互いが少し緊張している。

「長い人生にはこういうことだってある」父があらたまった口調で言った。「晴れの日ばかりではないし、嵐の夜だってある。ただし、やまない雨はない。いつか、おまえの空だって晴れる」

「ああ、そうだね」

答えながらどぎまぎした。父は息子への励ましの言葉を一生懸命考え、今、それを伝えているのだ。親は子供のことを少しも理解していない。でも存在がありがたい。

「この国で飢えるということはないから、悲観するな。楽観してればいい。今の土地にこだわることもない。人間いたるところ……」
うっ、^{*5} またしても——。祐輔は身を硬くした。

「青山ありだ」

^{*6} 安堵した。父は「ニンゲン」ではなく、「ジンカン」と正しく読んだ。「セイザン」も。さすがは元教員である。

「人間」は世の中のことで、「青山」は墓場のことだ。だから「人間到る処青山在り」とは、「世の中、どこにでも骨を埋める場所がある」という意味なのだ。

父が「厚子さんと話したい」と言うので、妻に受話器を手渡した。

「いえいえ、そんな」厚子がしきりに恐縮している。「わたし、そろそろ外で働きたかったんです」背中を丸めて訴えかけていた。そして、電話が切れた後、「お義父^とさんに謝られちゃった」と肩をすくめた。

「苦勞をかけて申し訳ない、^{*7} せがれには必ず家長としての責任を全うさせる、だって」

「あ、そう」祐輔はつい吹き出してしまふ。

「ユウちゃん、家長として責任とってよね」厚子は口の端を持ち上げ、笑った。

「ええ、とりますとも。弁当、君の分も作ろうか？」

「あ、作って。会社の近くの店、ランチタイムになるとどこも行列で、ゆっくり食べられないのよ」

「じゃあ、きんぴらごぼうと、とりの唐揚げと、出汁巻き玉子と、あとブロッコリーもあるから……」指折り数えた。「あ、そうだ。出汁がもう切れてたんだ。今夜のうちに作っておこうかな」祐輔が腰を上げた。

「ねえ、わたし、先に寝ていい。疲れちゃった」

「もちろん」

「ふふ。奥さんもらった気分。みんなに自慢したい」

厚子は「ふあわわ」と、インディアンのように手を口にあててあくびを響かせ、寝室へと消えていった。

⑥ キッチンに立つ。手鍋に水を入れ、洗った昆布を底に敷いた。

【語注】

【 奥田 英朗 『ここが青山』（集英社） ※問題作成の都合上、一部改変 】

*1 接待ゴルフ 取引先などを接待し、親睦しんぼくを深めるために行われるゴルフ

*2 いっぞやの一件 厚子が「開かずの踏切」を渡ろうとして警官ともめ、その警官をやりこめた一件

*3 公園であった出来事 この日の夕方に昇太を遊ばせていた公園で、祐輔の会社が倒産したことを知っている老人から『逆境に

打ち勝つ50の名言』という本をもらったこと

*4 ジェンダー 社会的、文化的に形成される性別

*5 またしても この日、祐輔は二度「人間到る処青山有り」ということばの間違った読み方をきかされていた

*6 安堵 安心すること

*7 せがれゝ家長 せがれは自分の息子の謙称。家長は一家の主

問一 二重傍線部 a、b、c について、次の問いに答えよ。

1 二重傍線部 a 「ほくそ笑んでいた」の意味として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 馬鹿にするように笑っていた イ 思わず吹き出して笑っていた

ウ 見下して冷ややかに笑っていた エ 思い通りになって笑っていた

2 二重傍線部 b 「涼しい目」とはどのような様子を示すか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 優雅で軽やかな様子 イ 軽蔑するような様子 ウ 何事も気にしていないような様子 エ 決意を秘めた様子

3 二重傍線部 c 「噂をすれば」と同じ意味の慣用句として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 誹れば影さす イ 影が薄い ウ 人の噂も七十五日 エ 噂にのぼる

問二 傍線部①「すごく無色透明で自然な言い方」とあるが、これはどのようなことか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 何一つ他意がなく、考えをそのまま出しただけの言い方。

イ 日頃の信念にもとづく、有無を言わせないような言い方。

ウ 他の人には理解できない、その人特有の変わった言い方。

エ 誰もが受け入れてしまうような、何のとげも無い言い方。

問三 傍線部②「眉を八の字にして」とあるが、厚子がこのような表情をしたのはなぜか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア パン屋のおばさんにまで心配をかけていることがわかり、家庭の現状が情けなくなったから。

イ パン屋のおばさんが夫の失業によって働きに出た自分に勝手な同情を寄せてくることに困惑したから。

ウ パン屋のおばさんが仕事に急ぐ自分に対し、毎朝わざわざ声をかけてくることに腹が立っているから。

エ パン屋のおばさんが同情して声をかけてくることに対して笑顔を作り続けることに疲れたから。

問四 傍線部③「赤ちゃんの肌を撫でるような声である」、④「無理矢理作ったような穏やかな声だった」とあるが、それぞれの態度から伺える母と父についての説明として、最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 両親ともに、祐輔が会社の倒産によって無職になったことに気落ちしているだろうと考えて気を遣っており、母は息子の気持ちに寄り添おうとし、父は平静を装おうとしている。

イ 両親ともに、会社が倒産してしまった祐輔に励ましの言葉をかけてやりたかったが、母は息子の感情が爆発することにおびえ、父は祐輔が何も気にしていない様子に怒りをこらえている。

ウ 両親ともに、祐輔が無職になってしまった現実を受け入れられず、母は社会への怒りを抑えながら息子に愛情を伝えたく、父はただでさえ久々である息子との会話に緊張している。

エ 両親ともに、直接伝えてこなかった祐輔のことを暗に責めながらも、母は息子が会社への怒りを持っていないか心配し、父は威厳を見せて頼りになる存在だと示そうとしている。

問五 傍線部⑤「人間到る処青山有り」とあるが、父がこの言葉を祐輔に送った意図として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 失業したことで悩んでいるだろうと思われる祐輔に対して、人間はどのような土地でも骨を埋める場所はあるのだから現状が厳しくてもきつと大丈夫だと励ます意図。

イ 失業しても気にしている様子の無い祐輔に対して、働く場所はいくらでもあるのだから必死の覚悟で仕事を探し、就職出来たらそこに骨を埋めると諭す意図。

ウ 周囲の人間は勤めていた会社が倒産したことに同情しているが、自分たちは援助を惜しまないつもりでいるため飢えても死に場所など考えないでもよいと安心させる意図。

エ 勤める会社が倒産してしまった逆境を気にかけており、生活が苦しいのならば人間はどこで骨を埋めても一緒なのだから実家に帰ってきててもよいと伝える意図。

問六 傍線部⑥「キッチンに立つ。手鍋に水を入れ、洗った昆布を底に敷いた」とあるが、この部分における祐輔の説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 今の主夫生活を満喫しているが、両親との電話で「家長の責任」を問われ、厚子はその言葉に乗じて自分のお弁当も要求して先に寝てしまったことに反感をもつも仕方ないと諦めている。

イ 主夫生活に満足しているものの、一日に様々なことが起こり心が疲れてしまったことに加え、厚子も先に寝てしまったので慣れ親しんだキッチンに立ち心を落ち着かせようとしている。

ウ 主夫生活を満喫していたが、父親が電話で厚子に言った「家長の責任」を果たそうと、これからは料理の腕を磨いて生計を立てる決意を固め、まず明日の準備に取りかかるようとしている。

エ 主夫生活に満足していても、厚子はこの生活をどう思っているかを気にしていたが、両親との電話や夫婦の会話を通してその気持ちも消え、今の生活を頑張ろうと前向きになっている。

問七 この文章における表現の特徴として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 二人の会話を話し言葉にすることで、日常の一コマを切り出したような自然な感じを与える。

イ 景色や場面、状況を細かく実況することで、読者にその場にいるかのような臨場感を与える。

ウ 会話文以外で主人公の気持ちを出さないことで、読者が会話文へ注目するようにしている。

エ 主人公の料理が上達していくことを通して、家族が成長していく様子を描いている。

【三】次の文章を読んで、後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧に記入せよ。

今は昔、*1天文博士安倍晴明おんみんはかせあべのせいめいといふ陰陽師おんみょうじありけり。古いにしえにも恥aぢず、やむbことなかりける者ものなり。幼ようの時、賀茂忠行*2といひける陰

昔の素晴らしい陰陽師達と比べても恥じないほどの

陽師おんみょうじに随したがひて昼夜しゅうやにこの道みちを習まなひけるに、いささかも心こころもとなきことなかりける。①

少しも

然しかるに、晴明若わかかりける時、師しの忠行ちゅうぎょうが下渡*3に夜歩よあゆみに行きける供たごに、歩かちにして車くるまの後ろ*4に行きける。忠行、車くるまの内うちにしてよく

かいて、

寝入ねいりにけるに、晴明見みけるに、えもいはず恐おそろしき鬼おにども、車くるまの前まへに向かひて来きけり。

言葉にできないほど恐ろしい、

晴明③これを見て驚おどろきて、車くるまの後ろうしろに走り寄よりて、忠行ちゅうぎょうを起おこして告つげければ、その時にぞ忠行驚おどろき覚さめて鬼おにの来きたるを見て、術法じゆつぽう

をもつて忽たちまちに我が身みをも恐れなく、供たごの者ものどもを隠かくし、平ひららかに過すぎにける。

すぐさま、自身の 危険をなくし、

何事もなく

その後、忠行④、晴明あきみを去いり難がたく思おもひて、この道みちを教おしえること瓶びんの水みづを移うつすがごとし⑤。されば終つひに晴明あきみ、この道みちにつきて公私こうしに使つかわ

手放したくはない

そうであつたので

れて、いとやむことなかりけり。

【『今昔物語集』「安倍晴明、忠行に随ひて道を習ふ語」(卷二十四の十六)】

【語注】

*1 天文博士 星を読み吉凶を占う職、続く陰陽師もこれを兼ね、不思議な術を使った

*2 賀茂忠行 平安時代に活躍した陰陽師、安倍晴明の師

*3 下渡 下京あたりのこと、現在の下京区

*4 車 牛が引く貴人の乗り物、牛車

問一 二重傍線部 a～c の読みを全て現代仮名遣いのひらがなで答えよ。

a 恥ぢ b やむごとなかりける c いひける

問二 傍線部①「この道」とは何を指しているか。「道」に続く形で本文から漢字二字を抜き出して答えよ。

問三 傍線部②「心もとなきことなかりける」とあるが、この部分の主語にあたる人物として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 賀茂忠行 イ 安倍晴明 ウ 鬼 エ 供の者ども

問四 傍線部③「これ」とは、どのようなことか。その内容を書いてある箇所を本文中から二十五字で特定し、はじめとおわりの三字を答えよ。(句読点を含む)

問五 傍線部④「清明を去り難く思ひて」とあるが、忠行がこのように思った理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 清明が付き人として、夜中まで徒歩であってもついてきてくれるほど心優しい人物だということが分かったから。

イ 清明が夜遅くであつても、後ろから牛車に徒歩でついてきているのを見て、謙虚な心の持ち主だと分かったから。

ウ 晴明が自分より先に鬼の存在に気が付き、危険を知らせてくれたことから素晴らしい才能の持ち主だとわかったから。

エ 晴明が鬼のやってくる様子にすぐ気が付き、自分たちの姿を術で隠してくれたことから注意深い人物だとわかったから。

問六 傍線部⑤「瓶の水を移すがごとし」とは「瓶の水をそのまま移すかのようであった。」という意味だが、これについての説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 晴明への不信感をつのらせて、水を無造作に移し替えるときのように、教え方が乱暴になった。

イ 晴明への信頼を深め、自身の知識を全て受け継がせるかのように、より熱心に教えるようになった。

ウ 晴明への敵対心を募らせ、水を移す時のように注意深く晴明を警戒し、厳しく指導をおこなった。

エ 晴明のことが心配になり、水を移し替えるかのように慎重になり、教え方がより丁寧になった。

問七 本文の内容について説明した次の1～4の各文を読み、本文の内容に合致していれば○、間違っていれば×で答えよ。

1 安倍晴明は昔の陰陽師にもひけをとらないほどの優れた陰陽師だった。

2 賀茂忠行は夜道を歩く中、前方から恐ろしい鬼がやってくるのを見つけた。

3 安倍晴明の対処により、加茂忠行一行は恐ろしい鬼をやり過ぎることができた。

4 安倍晴明は賀茂忠行の教えを受け公私にわたり重用されるようになった。

※問題は以上